

鹿沼市立小中学校再編計画(案) パブリックコメント 意見と回答	
いただいたご意見	回答
再編とはずれてしまうのですが、意見をなかなか言う場面がないので投稿させていただきます。 中学生の自転車の通学の際、現在はリュック型のカバンになっているのにも関わらず、後ろにくる決まりなのが、昔の名残なのでは？と思います。 逆に危ない面もあるので、個人（家庭）の采配で決められたら良いと思います。	ご意見として関係課等に情報共有いたします。
今までの学校の先生はどう成りますが？	学校再編の対象となる小中学校の教職員については、閉校や開校のタイミングで、定期人事異動の対象となります。
北中学区に指定されているが、開通された道路を通り東中生が付近の道路を通学路にしている違和感がある。 北中までの道のりが遠く、街灯も少ないので治安の悪い近年では不安である。 税金を使い、新たな道路を開通するのであれば、それを想定した学区の再編成を行うべきであり、それらを実施しないのは怠慢ではないか？ 学区案を募集して、それらを参考にしてみたいはいかがでしょうか？ 何かしら取ってつけたような理由を述べて、一方的に回答として形だけのアンケートを取るのとは意味がないと思います。 各自治体単位で学区について聞き取り調査をして頂きたい。 少なくともこれを決めているあなた方よりも、真剣に我が子の学校生活を考えている側の意見をしっかり聞いて欲しいと思います。 あと無駄に多い資料で、中身がとてもわかりにくい、制作者側がわかりやすい資料を配布して、考えてますアピールはおやめください。 必要な人たちとの話し合いを行ってください。少なくともヒアリングが足りていません。 ぜひ意見交換したいので、いつでも時間を作ります。お待ちしております。	「学校再編計画」策定後は、改めて再編対象地区を対象に説明会を開催する予定です。 なお、学校再編の順番については、前期実施プランにおいて小規模の小中学校の解消を優先して実施してまいります。 それ以外の大規模校を含む小中学校は、後期実施プランにおいて、児童生徒数の推移を見極めながら隣接する学校も含めて検討をしていきます。 学校再編の検討の経過概要は以下のとおりです。 ・令和5年6月、「小中学校適正配置等検討委員会」を設置、令和6年7月までに6回開催し、小中学校の適正規模や適正配置について検討を行った。 ・令和5年9月～10月、保護者等対象に学校再編に関する「アンケート調査」を実施した。 ・令和6年2月中旬、「再編計画骨子」により再編計画のたたき台を公表した。 ・令和6年2月下旬～4月中旬、保護者等対象の「意見交換会」を10中学校区別に開催した。 ・令和6年4月中旬～6月中旬、地域住民対象の「意見交換会」を15地区別に開催した。 ・令和6年7月、「小中学校適正配置等検討委員会」から学校再編に関する「提言書」を受理した。 ・令和6年8月、「鹿沼市立小中学校再編計画（案）」「前期実施プラン（案）」を公表した。 ・令和6年9月、市民の皆様から幅広くご意見を伺うため「パブリックコメント」を実施した。
菊沢東小とさつきが丘小の千渡の就学区域について、県道鹿沼宇都宮線と記載されています。 以前は旧鹿沼街道が境になってたと思いますが、この記載だと古峰原宮通りが境となるのでしょうか？ 兄弟で学区が変わってしまう為、確認をお願いしたいです。	千渡地区の就学区域については、ご住所の変更がなければ、学区の変更はありません。 「鹿沼市立小中学校児童生徒の就学に関する規則」上の「県道鹿沼宇都宮線」については、旧鹿沼街道と読み替えて頂きたいと思います。 なお、旧鹿沼街道が全て鹿沼市に移管される令和7年度を目途に規則の一部改正を行う見込みです。
当初聞いておりました、最速で3年は難しくなってしまったのでしょうか？これからの人数減少の加速前に早く合併していただきたいと思っております。 複式学級による子供たちへの弊害が増えているように感じます。 板荷の先生が悪いわけではなく、やはり無理があるのではないかと毎日痛感しております。 何か計画を早める方法がございましたら、全面的に協力させていただきますので、何卒よろしくお願いします。	板荷地区については、今年8月に地区検討会を設置し、板荷地区の学校の在り方について検討を開始しています。 教育委員会としては、地区検討会での協議結果を踏まえて学校再編を推進してまいります。
再編のための実施スケジュールが整いました。 今回、北犬飼地区は義務教育学校ということで6年間の開校準備を見込みスタートすることになりました。私も北犬飼出身なので、旧北犬飼の茂呂地区を含めての義務教育学校には大賛成です。県内の義務教育学校の声も過去の運営協議会において示され、皆様の真摯な取組には敬意を払います。 その中で、自分なりの問題点が2つありますので、今回の協議会等にはお答えいただければと思い書かせてもらいます。 1つ目は、すべての再編計画にかかわることなのですが、廃校となる校舎の活用方法を早く明示してほしいことです。特に、北犬飼の前になる9年度統合校についてです。地域が学校の再活用を推し進めるのではなく、市が先頭に立つてほしいことです。地域のシンボルである学校が無くなることによって地域コミュニティが欠損し、地域の衰退化を危惧している地域があることと思います。以前の教育長が「沢の文化は無くさない」と唱えたことが地域古老の学校統合再編の足かせとなっているのではないかと勝手に思っています。そのことを踏まえて地域のシンボルである学校の活用問題を真剣に取り組んでほしいと思います。	学校の再編を進めるにあたっては、市の各種施策と整合性を図り、市役所の全部局が連携し、関連事業や公共施設全体を対象として調整を図ってまいります。 1つ目について、統廃合後の建物及び跡地等の利活用については、地域の実情やニーズを十分に踏まえながら、今後、効果的な取組を進めていきます。
2つ目は、放課後の児童の待機場所の確保です。今までは、通学している学校の近くに放課後スクール等の学童施設が存在しています。統合することによって、子供たちの居場所がどこになるのかが保護者にとっては大きな問題になるかと思います。自分の意見としては、例えば、池ノ森地区でいえば、現小学校でおこなっている放課後活動を義務教育学校が発足しても続けてほしいことです。 とりあえず、2つの問題点を提議しました。義務教育学校はまだ先のことになりますが、ぜひ先進的な取組ということで応援していきたいと思います。これからも微力ながら自分の立場で学校再編に取り組ませてもらいます。 また、今回委員長になられました「松本敏氏」にはとても期待しております。彼の敏腕で各地区で問題になっている事象を乗り切ってほしいと切に願っています。 最後に、なぜ南押原地区は小中一貫教育で、北犬飼地区は義務教育学校なのかのかわかりづらいので、そのあたりも明示されるといいかと思います。	2つ目について、学童保育をはじめとする放課後の児童の受け入れ先についても、今後、保護者や事業者と調整を図っていきます。 地区ごとの再編方針については、児童生徒数、学級数、地理的条件や校舎の更新時期等を考慮して個別に検討しております。 前期実施プラン（案）のP2の全地区、P23～26に南押原地区及びP27～30に北犬飼地区の方針を示しております。 なお、北犬飼地区の学校再編にあたっては、今後、保護者や地域住民の代表者で組織する「地区検討会」を設置し、義務教育学校の設置場所や、合意形成の方法などの検討を丁寧に進めてまいります。
計画には賛成であります。下記の2点、意見を述べさせていただきます。 ①義務教育学校は、既存の小中校と違う学校運営のノウハウが必要だと思えます。鹿沼市初の義務教育学校でありノウハウの蓄積が少ないのではと危惧します。教育委員会、学校、保護者、地域等関係者一丸での学校の立ち上げが必要であるのでは感じます。計画P15の開校準備会の項目に追記すべきでないでしょうか。 ②義務教育学校を1校しか開校しないのは何故でしょうか。上記①にも通じるところですが、複数で開校することで、ノウハウの蓄積が進みやすいのではないのでしょうか。	①について、開校準備会については、標準的な例を挙げているもので、学校種に応じて、検討内容や準備内容を調整して対応していきます。 義務教育学校のノウハウについては、既に、県内の先進地の教育委員会事務局や学校現場を視察訪問し、蓄積された情報や知識・手法・手順など様々な内容をご教示頂きました。また、業務を進める過程での疑問点については、先進地の担当者に問い合わせるなど対応しております。 なお、計画（案）P16～17には、実務作業を行うための役割分担を記載しており、今後、様々な課題に対して、調査・検討・調整を行っていく予定です。必要となる業務や役割分担についても、視察先の先進事例を参考に作成しております。 今後、先進地からご教示いただいたノウハウを、本市の義務教育学校設立に活用・応用してまいります。 ②について、地区ごとの再編方針については、児童生徒数、学級数、地理的条件や校舎の更新時期等を考慮して検討しておりますので、現在のところ、他の地区において、義務教育学校の設置を検討する予定はありません。

鹿沼市立小中学校再編計画(案) パブリックコメント 意見と回答	
いただいたご意見	回答
義務教育学校に決定してよかったですが、まだまだ年数があります。池ノ森小学校は特別教室にもエアコンがない状態で子ども先生達も頑張って学んでいます。新しい学校ができるまでのつなぎという考え方はぜひやめていただき、最後まで快適に学べる場を提供してあげてください。 できれば、調理場も最後まで残していただけると以前給食で文部科学大臣賞をとった池ノ森小学校も、気持ちよく終われるのではないかと思います。 なにとぞ、よろしくお願い致します。	ご意見として関係課に情報共有いたします。
学区を緩くえらべるようにして頂きたい。 児童数の少ない学校へは移動しやすく住所など関係なくしてほしいです。 アパート住まいだと中学校へ行くまでに引っ越しをしなければいけない…アパートがなかなか無い区域で厳しい状況です。	「学校選択制」の導入については、過去に導入していましたが、現在のところ実施する予定はありません。課題を整理しながら、慎重な検討が必要になると考えます。
小学校及び中学校は地域に根差した、地域と連携した教育施設であると思う。4月に行われた意見交換会では、既にほぼ決まった内容のものを説明された感じのする意見交換会というより説明会であったという印象でした。9月2日に下野新聞に掲載された内容は、南押原は小中一貫校で、「南押原、楡木の両小学校のいずれかの学校の校舎を使い」と記載されておりましたが、4月の意見交換会では既に南押原小の校舎を使うと説明されていたにもかかわらず、その内容は、意見交換会結果の資料には記載されておられません。どの学校で学ぶかは重要な要因であって、市として都合の悪い内容は載せたくないのと、新聞情報と意見交換会（説明会）の内容が異なっており、市の2枚舌のような説明が感じられ、市の都合のいいように再編計画が作られている感じを受けております。9月2日の新聞記事と意見交換会（説明会）との内容が違うことについてなぜですか。また、意見交換会結果に記載されていないのはなぜですか。	今年4月の意見交換会で説明しました「鹿沼市小中学校再編計画 骨子」の内容については、広く意見を伺うためにまとめた検討段階のたたき台となり、意見交換会の結果を踏まえて、「鹿沼市立小中学校再編計画（案）」の目指す再編方針をまとめております。 骨子と計画（案）では、表現の違いはありますが、統合先の校舎については、今後、地区検討会の中で協議していくとしております。 なお、4月の意見交換会では、小学校の集約先については、今後、保護者や地域住民の意見を伺いながら検討していく、という内容で説明していることを申し添えます。
鹿沼市の計画では、南押原地区では新聞報道にもあったように令和11年度から小中一貫校を開校するとしているが、生徒数の予測推移では、令和15年度は、かろうじて適正規模を見通しているがその根拠となる要因（算出方法）は何ですか。また、現在（R6）の小学校1年生は、楡木小5名、南押原小5名と聞いており、南上野町を含めても16名には届かず令和16年には小規模校になることが予想され、人口のトレンドからしても何も対策を講じなければ改善の見込みはないと思います。このような状況で開校5年で小規模校になってしまうことが予測され、小学校の統合は必要と思いますが、どうしても小中一貫教育を令和11年度に開校しなければならない理由は何ですか。まず小学校を楡木小学校（地区内では1番人数が多いので）に統合して複式学級を解消し、その後、人口、生徒数の状況（推移）を見定めたくうえで何年かかけて小中一貫教育がいいのか、意見にもあったように北押原に統合した方がいいのか、地域の住民の意見も聞きながら慎重に判断した方がいいと思いますがいかがですか。	児童生徒数の将来見込みの算出方法については、住民登録情報や国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」により推計値を算出しております。 今後も、市全域で児童生徒数の減少が見込まれており、子どもたちの良好な教育環境の実現のためには、適正規模を確保することが重要となっています。 地区ごとの再編方針については、児童生徒数や学級数、地理的条件等を考慮して検討しておりますので、現在のところ、計画期間中に同一地区内で複数回の統合を検討する予定はありませんし、子どもたちが何度も統合を経験することが無いように進めてまいります。 また、地域住民が組織する団体や、意見交換会においても多くの方からご意見を頂いていることから、実施に向けては保護者や地域住民の意見を伺いながら今後検討を進めてまいります。
小中一貫校については、アンケートでは低い数値であり、中学校では1学級の人数が15人以下となると満足度や学習意欲などが低下すると言われているにもかかわらず強硬に実行しようとする理由は何ですか。 南押原小学校と南押原中学校が隣接しており、小中一貫校として開校するのに市として合理的（予算的にも）であることが小規模校と予測されても小中一貫校にこだわる一番の理由ですか。その小規模校としての小中一貫校が、子供たちのために本当にメリットがありますか。その根拠となる判断基準はどこに記載されていますか。 小学校の統合については、楡木小学校がいいのか、南押原小学校がいいのか、地域との繋がりがあることから、関係者の意見だけではなく、地域の全住民に対するアンケートを実施しその意向を反映して欲しい。そのときに、小中一貫校がいいのか、南押原中でいいのか、北押原中学校への統合がいいのかを聞いて欲しい。	学校再編計画（案）では、P11～12に導入の考え方、関連資料10において、小中一貫教育の概要について示しております。 小中一貫教育の導入については、小中学校を一体的に捉えて一定の児童生徒数を確保することにより、学校行事の活性化や多様な学習集団の編成、異年齢交流の機会の大幅な拡大などが可能となり、少人数の課題である社会性の育成や切磋琢磨する環境の整備、多様な考え方に触れる機会の確保に大きな効果が期待できます。子どもを第一に考え、小中一貫教育の導入を推進してまいります。 南押原地区の学校再編にあたっては、今後、保護者や地域住民の代表者で組織する「地区検討会」を設置し、小学校の集約先、小中一貫教育の実施や合意形成の方法などの検討を丁寧に進めてまいります。
私は子供が南押原中、楡木小に通っている保護者です。現在、南押原地区、小中ともに、生徒数少ないながらも、自分の子供達は和気あいあいと楽しく学校に通っています。 今、南押原に小中一貫校教育を検討されていますが、資料にはR10、54人、R15、49人となっています。開校時、中学生が3学年で、50人前後。（おそらく実際は10人くらい減ってると思いますが…。）その時点で、もうすでに少なすぎると思うのです。 今後、鹿沼全体が少子化、南押原も子供は減り、苦勞して開校しても、結局、数年でまた、合併するようになってしまふのではないかと考えます。 せっかく、再編成を考えるのであれば、長期的に先を見越して、北押原中または北犬飼中と南中は合併し、小中一貫教育の分の予算を子供達の教育に使った方が良いと思います。 小学校は少し小規模でも、中学校は社会性や広い視野を身につけるためにも、ある程度の人数が必要だと私は思います。 もちろん、南押原地区に学校がなくなると、若い人の流出や街の活気が無くなる恐れはありますが、親としては、子供に色々な経験をさせてあげたいと考えます。 小学校だけ合併をして残す。と言う策もありますが、小中一貫校の話があるからには、無理ですかね南上野地区は意向を確認、みなみ小のまま？が妥当かも） 小中一貫校教育ですが、校長先生がそれぞれいて、学校も別では、思い切ったことはできないし、何も変わらないのではと思います。やるなら、義務教育学校にしたほうがよいと思います。 意見交換会でも話しましたが、まだまだ保護者の方の学校再編成の認知度、関心が低い為、ぜひ、学校、保育園などにも、周知してほしいです。この、パブリックコメントもどのくらいの方が意見を述べてくれるのか？ これは余談ですが、子供達に、南中同級生10人と、同級生100人どちらの学校に行きたい？と聞いたところ、内2人は迷って答えられませんでした。それは、小学校の仲間が行く方に行きたいとの事でした。安心して学校に行けるって大切ですね。 色々と言見を述べさせて頂きましたが、南押原地区も穏やかで、とても良い地域です。また、子供達のより良い家庭環境と学校環境を構築していきたいと、心から願っています。	地区ごとの再編方針については、児童生徒数や学級数、地理的条件等を考慮して検討しておりますので、現在のところ、計画期間中に同一地区内で複数回の統合を検討する予定はありませんし、子どもたちが何度も統合を経験することが無いように進めてまいります。 小中一貫教育の導入については、小中学校を一体的に捉えて一定の児童生徒数を確保することにより、学校行事の活性化や多様な学習集団の編成、異年齢交流の機会の大幅な拡大などが可能となり、少人数の課題である社会性の育成や切磋琢磨する環境の整備、多様な考え方に触れる機会の確保に大きな効果が期待できます。子どもを第一に考え、小中一貫教育の導入を推進してまいります。 「学校再編計画」策定後は、改めて再編対象地区を対象に説明会を開催する予定です。 なお、南押原地区の学校再編にあたっては、今後、保護者や地域住民の代表者で組織する「地区検討会」を設置し、小学校の集約先、小中一貫教育の実施や合意形成の方法などの検討を進めてまいります。